

Vestax

PDX-d3

取扱説明書



VESTAX CORP.

2-37-1 Kamiyama, Setagaya-ku, Tokyo 154

Phone: 03-3412-7011 Fax: 03-3412-7013

VESTAX MUSICAL ELECTRONICS CORP.

2860 Cordelia Rd. Suite 120 Fairfield, CA 94585 U.S.A.

Phone: 707-427-1920 Fax: 707-427-2023

VESTAX (Europe) Ltd.

18 St. Christopher's Road, Haslemere, Surrey GU27 1DQ England

Phone: (0) 1428-653117 Fax: (0) 1428-661021

ごあいさつ

この度は、VESTAX PDX-d3をお買上げ戴きまして誠にありがとうございます。ご使用前に、本取扱説明書をよくお読み頂きますようお願い致します。

特 徴

- FULLタイムクォーツロックシンセサイザー方式の採用により、プラッターの回転を正確に制御し、さらにPLL回路を2系統搭載し高安定性を実現しました。
- 最大±12%の範囲のピッチを、センタークリックを持たないピッチフェーダーでコントロールし、その最大幅を±3%、±6%、±12%から選択できます。
- モーターのサーボ/ブレーキを解除するMOTOR OFF機能や、逆回転を行うREVERSモードを世界で初めて搭載しました。
- ステックコントローラーは、ピッチベンド機能とFAST/SLOW機能を持ち、曲の頭出しや、小節の頭合わせ等、レコードに触れずに行えます。
- ハイトルク ダイレクトドライブ モーターの採用により、起動トルクは1.6kg・cm 重量級ターンテーブルがわずか 0.5秒(33⅓rpm時)でたち上がり、頭だしがタイミングよく行えます。
- トーンアームはフローティング サスペンションシステム採用により、ハウリングを極力防止することに成功しました。
- ピッチフェーダーはデタッチャブル フェーダー システム方式によりメンテナンスを容易にしました。
- クォーツロックには、ON/OFF切替えスイッチを採用し、ピッチを変化させていても、瞬時に定速回転に切替えられます。
- 針先を照明するライトは、取外し可能なデタッチャブル ミニライトを採用しました。
- 電子ブレーキ機構を採用していますので、ワンタッチで素早くブレーキがかかります。

安全上のご注意

- 本機は交流(AC)電源100V専用ですので、直流電源や他の異なる電圧の交流電源に直接つないで使用することはできません。
- 電源プラグをコンセントから抜くときは必ずプラグを持って抜いて下さい。無理にコードを引っ張ったりして抜くとコードを傷めてしまいます。
- 水等に濡れた手でプラグを持ってコンセントに抜き差ししないで下さい。感電することがあり、大変危険です。
- ビニール等の被膜が切れたりこすれたりして電線が露出している電源コードをそのまま使用すると、感電や火災の原因となります。また、本機内部に水等の液体や可燃物およびピン等の金属類を入れないようにご注意ください。感電や故障の原因となります。
- 本機外装のカバーを取り外して内部に手を触れないで下さい。この結果生じた損傷、感電や火災等について、弊社はその責任を負いません。

設置上のご注意

常温(5~35℃)、通風が良い、頑丈で電源電圧の変動が少ない場所に設置して下さい。アルコールやシンナー等の溶液で塗装面をふかないで下さい。塗装がはげることがあります。

アフターサービス

1. 本機には保証書を添付してあります。所定事項を記入してお渡しいたしますので、記載内容をご確認のうえ、大切に保管して下さい。
2. 保証期間中は、保証書の記載内容により、弊社サービス機関が修理いたします。
3. 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについてご不明の場合は、お買上げの販売店、または弊社サービスにご相談下さい。保証期間経過後、修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

取扱い上のご注意

1. 針先やレコードに付着したほこりやごみは、よく取り除いてください。

針先にはこりやごみがついたまま演奏しますと、針先がレコード音溝に正確に接触せず、音質が悪化するだけでなく、レコード盤や針先の損耗が早まります。

トーンアームからシェルごと取はずし、柔らかい穂先のはけか毛筆などで根元から針先に向かって、ていねいに取り除いてください。

また、レコード盤も良質のレコードクリーナーでよくふいてください。

2. シェル端子は時々ふいてください。

シェルをトーンアームからはずしておきますと、シェル端子にはこりやごみがつき、接触不良を起こし、雑音が発生したり、ハムが大きくなったり、また、音が出なくなる場合がありますので、柔らかい布などで、シェル端子をふいてから、トーンアームに取りつけてください。

3. シェルを着脱する場合、アンプのボリュームを“0”にするか、アンプの電源を“OFF”にしてから行ってください。

ボリュームをあげた状態でシェルの着脱を行いますと、不愉快な音がするだけでなく、スピーカをいためる場合があります。また、シェルを着脱する場合は、針先保護のため、針カバーをしてください。

4. ハウリングとハムについて

ハウリングは、スピーカからの音や振動がプレーヤーに伝わり、それを再びカートリッジが拾い上げることによって生ずるものです。ボリュームを上げて、ウオンというハウリングが発生するときは、スピーカと本体との位置関係をチェックし、音や振動が本機に伝わらないように対策してください。

ハムノイズは、他の電源製品から出る電磁波によるものです。本機周辺の電器製品では特にアンプとの位置関係をチェックしてください。また、ハムやノイズはアースを正しくとらないと発生します。アース線をアンプ、ミキサーのGND端子にしっかり接続してあるかどうかチェックしてください。

5. 転宅などで、遠くへ運ばれるとき。

購入時の包装材で、開梱のときと逆の方法で包装してください。包装材がないときでも、次のことは必ず行ってください。

- ターンテーブルシートとターンテーブルを抜き取って、傷のつかないように包装します。
- アームをアームレストに戻し、更にテープで結んで動かないようにしてください。
- バランスウェイトやシェル／カートリッジは、アームから取はずし、傷のつかないように包装してください。
- 本体は、毛布や、柔らかい紙で、傷のつかないように包装してください。

お使いになる前に

本機は一部の部品を取り外して包装しております。部品が揃っているか確認してください。

- | | |
|------------|----------------|
| 1. 本体 | 6. バランスウェイト |
| 2. ターンテーブル | 7. EPアダプタ |
| 3. スリップマット | 8. RCAケーブル |
| 4. シェルウエイト | 9. GNDケーブル |
| 5. シェル | 10. デタッチャブルライト |

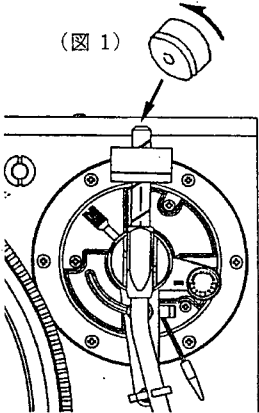
組立て方

組み立て調整がすべて完了するまでは、電源プラグをコンセントに差し込まないで下さい。

ターンテーブルの取り付け

1. ターンテーブルをセンタースピンドルにはめます。
2. スリップマットをのせます。

ご注意：ターンテーブルを取りつける場合、本体に当てないようにご注意下さい。



バランスウェイトの取付け

1. バランスウェイトをトーンアーム後方から入れ(図1)正面から見て左回り図1の矢印の方向に廻します。

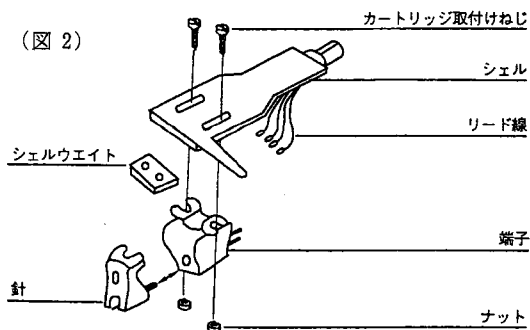
カートリッジの取付け

1. 図2を参考に、ご使用のカートリッジ説明書に従って取付けて下さい。又、カートリッジをヘッドシェルの先端と平行に取付けます。

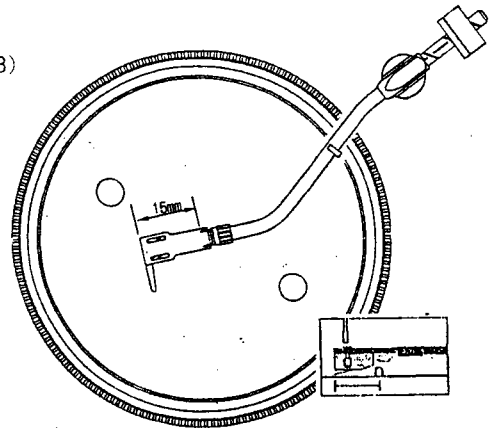
2. カートリッジのリード線のL, R極性は以下のようになっています。

赤のリード線……R + 白のリード線……L +
 緑のリード線……R - 緑のリード線……L -

ご注意：軽いカートリッジ(4g~5g)を取付ける場合は、付属のシェルウエイトをご使用ください。



(図3)



オーバーハングの調整

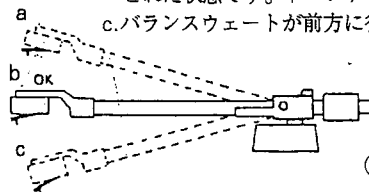
1. カートリッジを取付けましたら、次にオーバーハングの調整をします。このオーバーハングが正しく調整されていないと再生音に歪みをきたしたり、針とびを起こす原因となります。本機の標準オーバーハング値は15mmとなっています。定規等を使ってオーバーハングの調整をして下さい。(図3)
2. カートリッジの取付けビスをドライバーでゆるめます。
3. トーンアームをセンタースピンドル上に移動させて下さい。
4. 針先とセンタースピンドルの間隔が15mmになるようにカートリッジを前後に動かします。
 (ご注意) カートリッジを前後に動かす際、針先が指やターンテーブルに触れて破損することのないよう、慎重に行ってください。
5. オーバーハングが正しく調整できましたら、トーンアームをアームレストに戻し、カートリッジの取付けビスを締めて固定します。

水平(ゼロ)バランス調整

1. アンチスケATINGの目盛りを“0”に合わせます。
2. 針先にふれないように注意して、針カバーをはずし、トーンアームをアームレストから離してフリーの状態にします。
3. バランスウェイトを廻しながらトーンアームが水平になるように調整します。この時、キューイングレバーはFに倒しておきます。

調整例 (図4)

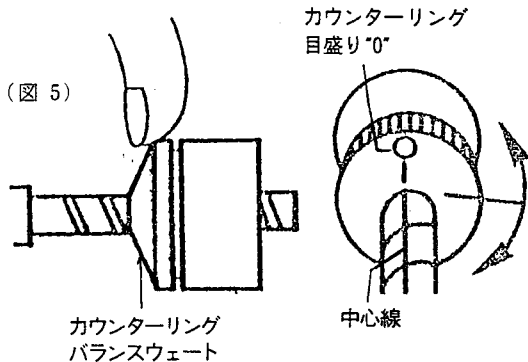
- a. バランスウェイトが後方に行き過ぎています。
- b. バランスウェイトとカートリッジのバランスがとれた状態です。トーンアームが水平になります。
- c. バランスウェイトが前方に行き過ぎています。



(図4)

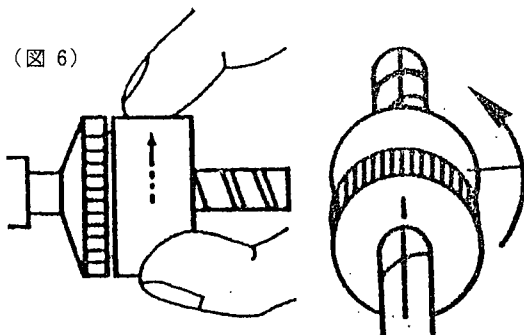
4. 水平バランスを調整した後トーンアームをアームレストに戻します。
 (ご注意) 水平バランス調整するとき、カートリッジの針先がターンテーブルや本体に触れないようにして下さい。

5. 水平バランス調整後バランスウェートを動かさないように指で支え、カウンターリングだけを廻し、アーム軸の中心線にカウンターリングの目盛“0”を合わせます。(図5)



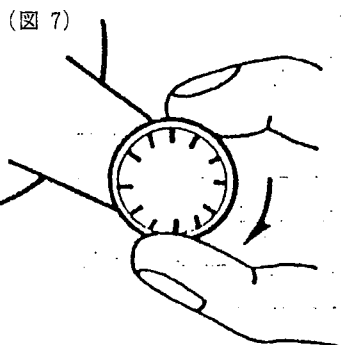
(ご注意) バランスウェートが動いてしまった場合は、もう一度水平バランス調整からやり直して下さい。

6. バランスウェートを図6の矢印方向に廻してカートリッジ指定の針圧に合わせます。バランスウェートを廻しますとカウンターリングも一緒に動きますから、カウンターリングを直読みしながら適正な針圧に調整します。(図6)

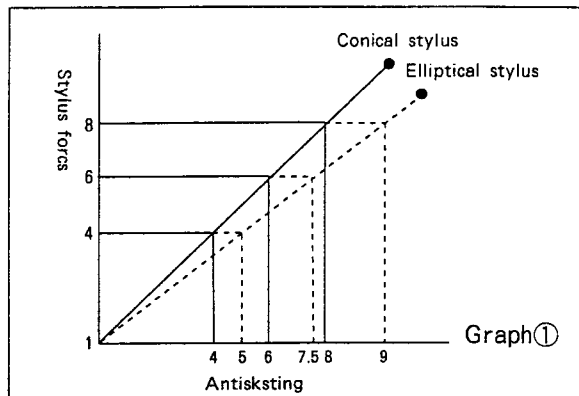


アンチスケーティングの調整

1. アンチスケーティングのつまみを、針圧と同じ値にします。(図7) (ご注意) 針の形状により値が変わることがありますので、Graph①を参考にして調整して下さい。

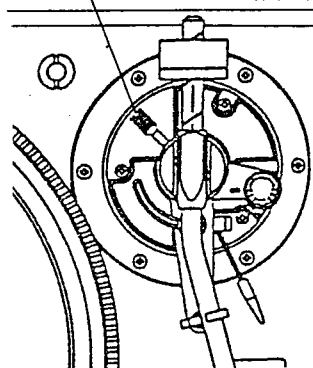


2. 正しい針圧調整、アンチスケーティング調整は、歪みのない再生音を得るため、また、針やレコードを長持ちさせるうえでも欠かせない重要なポイントです。



アームの高さ調整

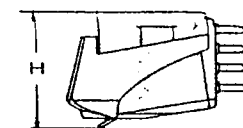
アーム高さ調整ネジ (図8)



ご使用カートリッジによりアームの高さ調整が必要な場合、アーム高さ調整ネジを廻して調整します。(図8) アームの高さ調整範囲は最大6mmです。

例:

- カートリッジの寸法 15mm
高さ調整必要なし
- カートリッジの寸法 21mm
高さ調整 +6mm

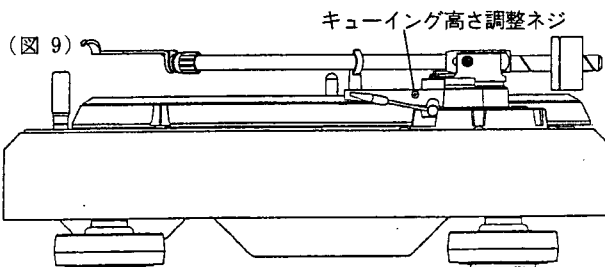


H:.....カートリッジの寸法

キューイング装置の高さ調整

アームリフトの高さ(キューイングレバーを上げた状態での針先とレコード面の間隔)は工場出荷時に適正の高さに調整していますが、ご使用カートリッジによってとくに調整が必要な場合は下記手順で調整して下さい。

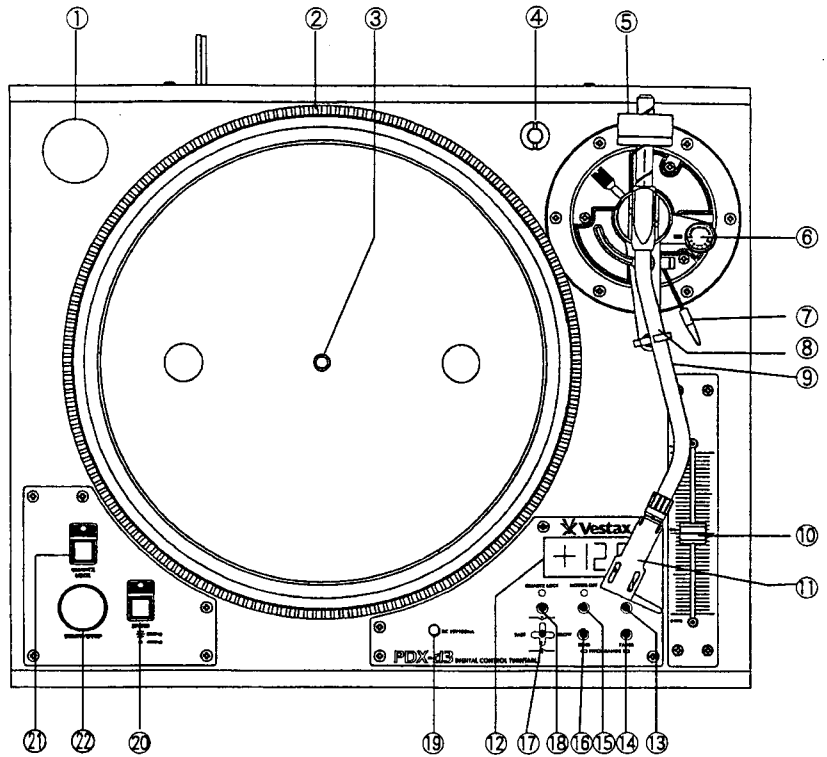
1. 針先保護のため針カバーをします。
2. ターンテーブルが回転しないようにパワー-SWをOFFにします。
3. キューイング高さ調整ネジをプラスドライバーでゆるめ、高さを調整して下さい。(図9)



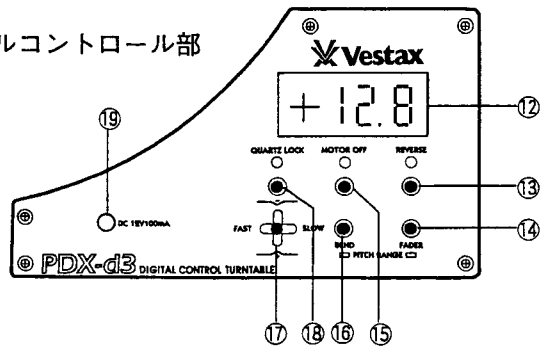
各部の名称

フロント部

- ① EPレコード用アダプタ
- ② ターンテーブル
- ③ センタースピンドル
- ④ カートリッジスタンド
- ⑤ バランスウェイト
- ⑥ アンチスケーティングつまみ
- ⑦ キューイングレバー
- ⑧ アームレスト
- ⑨ トーンアーム
- ⑩ ピッチコントロールフェーダー
- ⑪ ヘッドシェル
- ⑫ デジタルディスプレイ
- ⑬ リバースボタン
- ⑭ フェーダーピッチレンジ切換えボタン
- ⑮ モーターオフボタン
- ⑯ ベンドピッチレンジ切換えボタン
- ⑰ スティックコントロールローラー
- ⑱ クォーロックON/OFFボタン
- ⑲ デタッチャブルミニライト
- ⑳ ⑰ スピード切替ボタン
- ㉑ スタート/ストップボタン

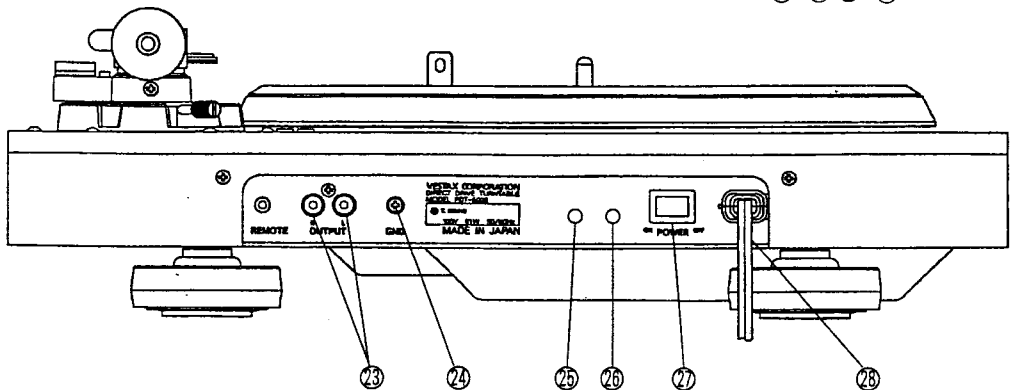


デジタルコントロール部



リアパネル部

- ㉒ アウトプット（出力）端子
- ㉓ GND端子
- ㉔ リモートイン端子
- ㉕ リモートアウト端子
- ㉖ パワースイッチ
- ㉗ 電源コード



プレーヤの設置

1. 外部振動を受けない、しっかりした水平な場所に設置してください。
2. スピーカシステムからできるだけ離して設置してください。
3. 直射日光、ほこり、湿気などの多い場所や、暖房器具の近くは避けてください。
4. 通風の良い場所を選んでください。
5. ラジオ(FM/AM)を極端に近づけますと、ラジオに雑音が入る場合がありますので、できるだけ本機より離してください。

接続のしかた

1. PHONO端子の接続

PHONO端子側		ミキサー側
白色(L)	→PHONO	L の入力端子へ
赤色(R)	→PHONO	R の入力端子へ
黒色(アース線)	→	GND の端子へ

(ご注意) アース線の接続は必ず行って下さい。アース線を接続しませんでしたと電源ハム(ブーンという音)が出ます。

2. 電源プラグの接続

電源プラグをコンセントに接続します。

(ご注意) 本機は交流(AC)電圧100Vでご使用いただくようになっています。200Vの電圧や直流(DC)電源には絶対接続しないでください。

デジタルコントロールのしかた

1. フェーダーピッチレンジ切替え

⑭のフェーダーピッチレンジ切替えボタンを押す事により、±3%、±6%、±12%に切替える事ができます。

⑯ディスプレイを見ながら、⑭を押し、設定したいレンジを表示するまで、連続押し(約1秒以内の間隔で)し、止めて下さい。⑯がピッチ表示に戻ったとき、最終表示した数値に設定されます。ただし、レンジ幅は、フェーダー自体の電気的性能限界により、設定した数値より、±0.9%以内で違ってきます。⑯ディスプレイには、信頼性の高いピッチ表示がされますので、フェーダーの位置より⑯を目安として下さい。

2. 逆回転

⑰リバースボタンを押します。このとき⑯ディスプレイにはron(リバースオン)と表示されボタン上のLEDが点灯します。もう一度押すと、逆回転機能が解除され、⑯には、roF(リバースオフ)と表示されて、ボタン上のLEDが消えます。ピッチ表示の±表示については、実際に回転している方向が+となります。ピッチフェーダー・バンド機能も同様です。

3. モーターオフ

モーターのサーボを中止し、プлатターの慣性力で回り続け、自然に停止します。また、プлатターの側面などに指をあて、止まり方を可変させる事もできます。⑰モーターオフを押すことによりこの効果が得られます。⑯にはSoF(サーボオフ)と表示されます。もう一度押すとモーターオフ機能が解除され⑯にはSon(サーボオン)と表示されます。モーターオフ状態の時、ピッチフェーダー・スティックコントローラー・リバース・スタート/ストップなどの機能は使えません。

4. クォーツロック

⑱クォーツロックボタンを押すと、その上のledが点灯し、ピッチフェーダーの位置に関係なく、33又は45RPMに正確にロックされます。その時qon(クォーツオン)と約1秒間表示され、その後+00.0とピッチ表示されます。もう一度押すとクォーツロックが解除され、LEDが消えて、⑲にqoF(クォーツオフ)と同様に表示されます。クォーツロック中は、スティックコントローラーのピッチバンド機能(縦方向上下)は無効です。

⑳パワースイッチをONにした場合の初期設定は、33RPM・クォーツロックオフの状態となっています。

5. スティックコントローラーによる早送り/スピードダウン

⑰スティックコントローラーを左に倒すと早送りとなり、スピードが上がります。この時㉑はFAS(ファースト)と表示されます。逆に右に倒すと、㉒にSLo(スロー)と表示され、回転スピードがダウンします。この機能はクォーツロック状態でも有効です。

6. スティックコントローラーによるピッチバンド

⑰スティックコントローラーを縦方向前方に倒すと、設定されているピッチより更にマイナス側となり、逆に手前方向に倒すとプラス側となります。どれくらい可変するか(ピッチバンドレンジ)は㉓によって設定します。その設定は、±1、±2、±3、±6%の中から選びます。㉓を押した時、左の点滅した数字と右の点灯した数字が並びます。左側が今設定されている数字で、右側が変更したい目的の数字を表します。㉓を押し続け、右側に設定したい数字を表示させ、しばらくすると左の点滅が点灯に変わり、右と同じ数字となります。この時の数が新しく設定されたピッチバンドレンジとなります。設定後はすぐに、㉑はピッチ表示に戻ります。ただし、設定中は、㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿ボタンによる機能は無効となります。

リモートコントロールについて

本機を2台お持ちの方はリモートコントロールを楽しむ事が出来ます。

1. 直径3.5ミリのモノラルフォンプラグをご用意下さい。(オーディオ/楽器店などで別途お買求め下さい。)

2. リアパネルの㉞リモートイン端子と、もう一台の㉞リモートアウト端子をケーブルで接続します。

3. デジタルコントロール部において、いずれかのボタンを最初に押した方がマスター機に設定され、もう一方はスレーブ機に設定されます。その後はマスターと同じ働きをスレーブはし、全てのデジタルコントロールについて、マスターの設定を変えたり操作を行うと、スレーブ機に触らなくてもマスターと同じ動きをします。スレーブ機の㉞からさらに3台目の㉞に接続すると、この3台目もマスターと同じ動きをします。こうして4台まで接続でき、リモートコントロールにより同じ動きをさせる事ができます。

演奏のしかた

1. レコード盤をターンテーブルシートにのせます。
2. リアパネルのパワースイッチを押し電源をONにします。
3. 針カバーをはずします。
4. スタート/ストップボタンを押します。ターンテーブルは回転します。
5. キューイングレバーを起こします。トーンアームは上昇します。
6. トーンアームをレコード盤上に移動します。
7. キューイングレバーを倒します。トーンアームは静かに下降し演奏が始まります。
8. 演奏が終わりましたら、トーンアームをアームレストに戻します。また、針先保護のため針カバーをつけておいてください。
9. スタート/ストップボタンを押します。ターンテーブルは電子ブレーキによりなめらかに停止します。その後、パワースイッチをまわして電源をOFFにしてください。
(ご注意) スタート/ストップボタンを押さずにパワースイッチをOFFにした場合、電子ブレーキは働きません。
10. 演奏を一時中断する場合。
キューイングレバーを起こします。カートリッジの針先はレコード盤より離れます。
11. EPレコードの演奏
EPレコード用アダプタをセンタースピンドルにはめます。
12. デタッチャブル ミニライトについて
本機には演奏中に針先を照らす、取外し可能なデタッチャブル ミニライトが付属されています。特に必要のない場合には、取り外してご使用になれます。

デジタルピッチメーターについて

メーターは電氣的にモーター駆動回路の発生させる回転数を読み取って表示します。その精度は、誤差0.1%未満という高精度です。ピッチコントロールフェーダーの動きにつれてメーターも動きます。一般的にフェーダーのカーブには誤差が大きいとされている為、本機ではフェーダーの位置で確認するよりも正しく確認できるデジタルメーターを採用しています。

ご注意

- 逆回しの際、使用する針によって音が歪む場合があります。
- 電源をオフにして、すぐオンにすると、マイコンのリセットがかからず、ディスプレイの一部が表示しない場合があります。この時、オフにしてしばらくしてからオンにすると正常となります

SPECIFICATION

TURNTABLE	MOTOR STARTING UP TIME STARTING TORQUE BRAKING SYSTEM RAMBLE (S/N RATIO) SPEED PITCH WOW & FLUTTER	DIRECT DRIVE QUARTZ 0.5sec (33 $\frac{1}{2}$ rpm) 70° 1.6kg/cm ELECTRONIC BRAKE 78dB (IEC 98A WTD) 33 $\frac{1}{2}$ rpm, 45rpm ±12% (DETOUCHABLE 100mm FADER) 0.03% W. R. M. S.
ARM	TYPE EFFECTIVE LENGTH OFFSET ANGLE OVER HANG TRACKING ERROR CUEING DIVICE ANTI SKATING STYLUS PRESSURE ARM HIGHT	STATIC BALANCE'S SYSTEM (ALMOST ZERO ACOUSTIC F. B) 230mm ±1mm 22° 15mm +2° 32' ~ +0° 32' OIL DAMPLING TYPE ADJUSTMENT RANGE 0~7.0 g ADJUSTMENT RANGE 0~7.0 g ADJUSTMENT RANGE 43~49mm
	LIGHT SPEED LOCK DIMENSION WEIGHT POWER	DETOUCHABLE MINI LIGHT DC12volt 100mA QUARTZ LOCK (W)450mm×(H)136mm×(D)370mm 11kg AC100V

Vestax Corporation